

徳島県総合計画審議会「西部圏域部会」 会議録

1. 日 時 令和4年9月2日（木）午後3時40分から午後4時15分まで
2. 場 所 徳島県西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員（14名中WEBを含め11名出席）
真鍋部会長、金村副部会長、北島委員、澤田委員、武田委員、土井委員、西村委員、平岡委員、藤田委員、三木委員、吉田委員
 - (2) 県
総合政策課長 ほか
4. 議 題
 - (1) 新たな総合計画の策定方針について
 - (2) その他
<配布資料>
資料1 新たな総合計画の策定方針
資料2 「未知への挑戦」とくしま行動計画（「将来ビジョン」抜粋）
5. 議事録
 - (1) 事務局から、事前に総合計画審議会山中会長から真鍋委員が部会長として指名されている旨を連絡
 - (2) 川人総合政策課長挨拶
 - (3) 真鍋委員、部会長就任挨拶
 - (4) 真鍋部会長から、金村委員を副部会長に指名
 - (5) 意見交換
事務局から資料1・2について説明の後、意見交換が行われた。

（金村副部会長）

私からなんですけれども、2060年ということで、ちょうどわたくしだと90歳ぐらいになるんですかね。その頃イメージして、じゃあどういった徳島になってほしいのか、どういったにし阿波地域になってほしいのかっていうのを考えた時に、やっぱりそこに住んでいる人たちがですね。この地域っていいよとか、この地域に住んで良かったとか、やっぱり地域のエンゲージメントとか、そのロイヤリティであるとか、愛着心であるとか、そういう風なものをその地域に住んでいる人が持っているっていうのが、やっぱりなりたい姿だなあっていうふうに感じていますね。やっぱりそういったものを高めていくためには何が必要かと言いますと、人材育成であったりとか教育であったりとか、そういったものが時間がかかりますけれども、必要になってくると言うことで今後ですね、徳島県の取り組みとしてそうい

った、次世代の子どもたちの人材を作っていくっていうこと。やっぱり時代がね、人を作って、人が時代を切り開くことを言いますけれども、そういった本当に人材を作っていくような教育プランであるとか、人材育成プランを盛り込んでいていただきたいなというふうに感じております。以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。人材教育ですね。子どもたちへの教育の意見をいただきました。ありがとうございます。続きましてオンラインでご参加の北島委員さん、お願いできますでしょうか。よろしくお願いします。

(北島委員)

はい、お願いします。私の場合は福祉の分野になるんですけど、障がいのある子供さんへの支援っていうのが今けっこう充実してきていると思うんですけど、じゃあその子供たちがはたして大人になったときに、自立ができるような、そういった所までやっぱり考えていかなければいけないのかなと思うので、そこはこのにし阿波地域で獲れるお野菜とか、その販売がブランドの付加価値をつけたりとかして、自立ができるようなそういう仕組みができたらいいいのかなと思うし、そういう教えてくださる方、人材とかも必要になってくるのかなと思います。やっぱり切れ目のないそういう支援っていうのはこれから必要になってくると思うので、子供さんだけにフォーカスするのではなくて、その子供さんが、大きくなった時の就労の面、どのぐらいの幅、やっぱり作ってあげていかなければいけないと思うので、その受け皿をしっかり作ってほしいなと思います。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。続きまして、澤田委員さん、よろしくお願いいたします。

(澤田委員)

ありがとうございます。2060年ということなんで、僕もイメージをしてまして、結構イメージしにくいんですけど、ここにあるまちづくりの観点から言うんですね。やはり乗り物がすごくこれから変わっていく中で、ラストワンマイルだとか、色々な価値観が出てきてます。田舎は特に、田舎とか地方は特に、交通インフラっていうのが、やっぱり都会に比べると貧しくなっているというところで、そのスマートシティだとか、いろいろこの中に書いてるんですけど、今の電動キックボードだとか、いろいろスケートボードだとか、規制が変わってくる、変わり目ということで、徳島県として、その先駆けをできたらいいなというふうには感じました。イメージした時にみんなが電動キックボードで移動している町だったら面白いかなと思うことを感じました、以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。続きまして武田委員さんよろしく願いいたします。

(武田委員)

男女共同参画社会についての理解は深まりつつあると思いますが、性別の役割分担による差別意識はまだ解消されていないように思います。性別や年齢、国籍、障がいの有無に関わらず、ひとりひとりが個性と能力を発揮できるよう、今後も取り組みを強化していただきたいなと思っています。また、男女共同参画に基づき、自治会役員とか自主防災組織、防災士会においても、また女性の参画を拡大し、女性の視点からのニーズや課題などを取り入れた政策を打ち出して、地域の活性化や防災力の向上に努めていただきたいと思っています。防災教育については、子供に対してはもちろんです。保護者の方も一緒に防災教育を受ける機会を設けることで、若い世代、働き盛り世代の防災意識が向上するのではないのでしょうか。そこに自主防災組織とか防災士会が関わることで、より一層自助共助の強化につながって命を守るという地域づくり、地域の絆が結ばれるように思います。これらが2060年頃に徳島県全体で当たり前のように実現されていければいいなと思います。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。続きまして土井委員さんよろしく願います。

(土井委員)

失礼いたします、土井です。2060年頃、約40年後の未来を私なりに想像してみました。前段の西部地域政策総合会議で障害福祉サービスについて触れましたが、障がい者や高齢者、さらには年齢や性別にとらわれない未来になっているのではないかと思います。健康寿命は延び、百歳でも現役の時代となり、技術の進歩によって身体機能であったり、知覚能力の衰えを個性と考えられることが可能になっているのではないのでしょうか。下半身に障がいがあっても、立ち上がって歩けるようになり、脳波や音声によってコントロールできるロボットなどが開発され、自分のライフスタイルを確立し、個性を楽しむ時代になり、誰もが生きやすい世界になっている、そんな世界を想像しました。新型コロナウイルスによりまして、つらい思いをした一方で、デジタル技術の恩恵により、働き方やライフスタイルを考え直し、新しい可能性を見出した人たちも多いと思います。これまでの概念にとらわれることなく、誰もが自由に仕事や生活の場を選択できることに気づき、ポストコロナと技術を組み合わせた未来を想像しやすくなったのではないかと思います。また、人口減少と少子高齢化、労働力不足といった課題を抱えておりますが、健康寿命が伸びることによる定年延長であったり、百歳現役時代が実現されれば、あらゆる世代の人たちが活躍することができます。IOTなどによる生産性の向上や労働力が増えることで、社会保障が充実し、安心して子育てできる環境が整い、少子化の進行を緩やかにする事に繋げることも可能です。長期ビジョ

ンで書かれてあります年齢や性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、すべての人が安心して暮らし、自立しながら支え合い、個性や能力を発揮して自己実現できるダイバーシティとくしまで自分のライフスタイルを確立し、個性を楽しんでいる自分の未来を想像してワクワクする、そんな気持ちが大変だと思いました、以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございます。続きまして、西村委員さんよろしいでしょうか。

(西村委員)

西村です。失礼いたします。私の場合、観光中心で考えたことを言わせていただきたいなと思います。2060年には私も多分95になってるかなって言うので、すごく考えにくいので、2030年の中期ぐらいのところだったら、8年後なので、まだ考えられるかなと思いました。先ほど三好市の副市長が、合併当時34,800人が今24,000人しかいないと。計算すると、8年後にはたぶん15,000人ぐらいになってるかなと思います。県西部の方どこも過疎地なので、住民はいない、子供がいらない、学校はない、病院はないっていうのに拍車がかかってくるんじゃないかなと思います。それでも観光業としては、もし現地に人がいないんだったら、外からの人をどうやって、どんな形でもいいので、地域に入ってもらいたいっていうのがあります。そこを考えた時に、先ほども出ました、澤田さんが乗り物がない、二次交通インフラが全然ない。今県がやってくれてる南の方はDMVですかね。新しくああいうものができました。この北の方は広大な地域でもありますので、ヘリコプターをどうにか使えないかな。色んな空港からどこか旅行に来るのもヘリコプターで移動できるような、夢みたいですけど、学校が全部閉鎖されていってるので、運動場がヘリコプターの基地になると、そういうので、遊覧をしたりとか、祖谷へでも3~40分で行けるようになるかなと思います。あと危機管理、いろんなことが起こってくるだろうと思うので、危機管理にも使われていくのではないかなというようなことも思いました。今からやって、中期ぐらいには間に合っんじゃないかなって言うような、夢のようなことなんですけど、そういうことを考えたり致しました。2030年頃、そういう風になって、人間は少なくなってもたくさん外から人が来てくれたらいいなと思っております。

(真鍋部会長)

ありがとうございます。それでは平岡委員さんよろしいでしょうか。

(平岡委員)

失礼いたします。私は三好西部森林組合で、GPS測量やドローンによる森林調査を行っており、女性でも林業の仕事に関わっていています。ですが、林業には高齢化により今の現役の方がリタイアして、若い人が入って来なければ産業としては継続できないと思ってい

ます。なので林業アカデミーの取り組みを継続とか、拡大することで若い人たちが林業に入って来て欲しいって言う気持ちがあります。新たなデジタル技術の導入にもよって、女性がますます林業でも働けるようにお願いしたいなと思っております、以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございます。続きまして藤田委員さんお願いいたします。

(藤田委員)

よろしく申し上げます。40年後、2060年となると、なかなかイメージしづらいかと思いますが、このコロナをきっかけに、もう1年先、2年先、3年先も予想がつかないような、社会の変化が起こっている中で、やはり先ほどに続いて子供たち、人材育成が本当に必要であると考えています。変化に対応できる学びというところであったり、自分自身で自分たちがどのように生活していったりとか、問題解決をしているのかという意思決定の力をつけて行くことが非常に大切だと思っております。こちらの未来ビジョンの中にもふくまれています。多彩な幼児教育、保育サービスの提供というところで、やはり幼児からのさまざまな経験を通した学びがとても必要と感じているところでございます。その後、小学校、中学校、高校とその段階を経て、学びながら自分たちでこの地域を担っていくというような学びをできるような環境を作っていければと思います。やはり学校で学ぶことではなく、プラスアルファの学びの場の提供が本当に大切だと思いますし、先ほどに続いて、やっぱり地域で子供達を育てていくというところ、そして、どのような社会状況になっても、対応ができる人材を多く育てていくことが非常に大切だと思いますので、そちらのほうを提案させていただきます。

(真鍋部会長)

ありがとうございます。それではオンラインの方ですかね。三木委員さんよろしいでしょうか。

(三木委員)

申し上げます。長期ビジョンということで、結構すごい先の話なので、あまりピンと来なかったんですけど、自分に置き換えた時に、私はシニア世代になっていて、町の子どもと関わってきたいなあっていうふうには思いました。また今の子供たちは、結構地域に根付いた人になっていると思います。街を盛り立ててくれる人になっているだろうと思います。だからこそ、さっきも藤田委員さんからもあったように、今の子供たち、十代も含めて、この地域でのいろいろな体験や経験をたくさんさせたい、してほしいって言うのも私も同じ意見です。以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。最後吉田委員さん、お願いします。

(吉田委員)

今から 40 年後全然想像できないんですが、ほんの 30 年前にピッチの時代から今はもう海外とも無料で会話ができて、顔見ながら通話ができる時代になっています。そういうことも小学生の方がよくわかっていて、たちまち地元の中学校行かなくても、海外の中学に入るっていう面接もこれから始まってきます。なので徳島も早く、バカロレアを取った学校っていうのを早急に普及してもらいたいっていうのと、教員の人たちにも今までの教育じゃなくて、ICT とか IoT に対応した教員っていうのを、もっと増やしていただきたいと思います。40 年後といたらすごい先なんですけど、多分人間が運転してないと思うんです。今のように老人たちは子供たちに病院に連れて行ってもらうのじゃなくて、もっともっと無料のレンタルの乗りやすい乗り物、老人でもすぐ病院に行けるような、行きたいなと思う時に行けるような乗り物っていうのも、すぐ出てくると思うので、それをいち早く取り込むとか、カーシェアというのも違うかもしれないんですけども、それと同時に畑とかでもロボットさんと一緒に汗を流したりとかしてなんて言うんでしょうね、心を通わせられるような世界になってたらいいなって思います、以上です。

(真鍋部会長)

ありがとうございました。今いろいろと皆さんの方から御意見いただきました。他に御意見ありましたら、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

いろいろ未来を話すということで、なかなか想像つきにくいところもあるのかもしれないんですけども、委員さんの今の話を聞きながら、楽しい未来が想像できるなというふうに思いました。将来どこでも住めるとしますし、距離の概念だとか、時間の概念にしても、色々変わってくると思います。距離の概念は特に近くなってくると思います。その中で子供達がいったん外に出たとしても、帰ってくれる、帰ってきたいと思う幸福度の高い町を目指して、総合計画を策定をしていただけたらというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは御意見がないようでしたら、このあたりで終了させて頂けたらというふうに思います。なお、本日の会議の内容についてですけれども、何か補足することがございましたら、後日事務局まで御連絡いただけたらというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。以上で予定していた議題については終了いたしました。最後に事務局から、連絡事項をよろしく願いいたします。

<事務局説明>

・本日の会議の公表について、事務局で取りまとめた上、御発言頂いた各委員に確認頂いて

から、発言者名も入れて公開したい。

以上